

# ガバナー月信 末永直行氏 特別追悼号

奉仕の精神を体现し、福岡の音楽振興・文化育成、国際交流の発展に貢献したロータリアン

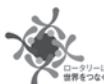
2019年10月1日 発行

2019-2020年度

国際ロータリー第2700地区ガバナーメッセージ

不易流行～永続と変革～

ガバナー 瀧谷 和徳



2019-2020年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーは世界をつなぐ (ROTARY CONNECTS THE WORLD)



日本の偉大なロータリアン

末永直行パストガバナーに哀悼の意を表して

博多駅弁の老舗・寿軒の社長を生業に、国際ロータリー理事、国際ロータリー第370地区（現第2700地区）ガバナー、初代在福岡仏共和国名誉領事、九州交響楽団常務理事、福岡大学理事長等、多くの要職を歴任されましたが、末永さんには肩書は不要でしょう。そこにおられるだけで、芸術文化の香が漂う紳士、ロータリアンでした。

1923年3月30日に福岡市に生まれました。末永家は、祖父：寿氏の代に長崎県五島から福岡に移り、運送業で財を成し、その後、父：敏毅氏は医師、直行さんが三代目です。邸内に教会を建て宣教師を招き、ピアノを囲んで讃美する家庭でした。その祖父の教えは、「財を増やそうと思うな、世のために使え」でした。

戦後、福岡市七隈の広大な敷地と屋敷が米国司令官公邸として接収されましたが、音楽好きの司令官のために、毎晩演奏家を招きました。この時、音楽マネジメントの面白さを体験。この経験から1952年に西日本音楽協会を設立。1954年に福岡音楽愛好会を立ち上げて、気楽に楽しめ

る演奏会を定期的に開催し、多くの市民からの支持を得たのです。

一連のこの活動が評価され1958年に米国国務省に招かれて渡米しました。トスカニーニやゼルキンなど多くの音楽家との面談を果たしました。当時フィラデルフィア在住でバイオリニストとして活躍中の江藤俊哉氏も訪ねました。帰国後には海外から幅広く音楽家を招き、日本での演奏会を実現させ、また江藤俊哉氏の帰国演奏会も実現させました。

実は、末永さんのロータリーにおける職業分類は、「文化団体（音楽）」です。末永さんの若き日の音楽評論や文化記事は、当時の新聞を賑わせたものです。

ここ、特別追悼号にて「末永直行さん、奉仕の人生」を綴り、心からの追悼を送りたいと思います。

末永直行さん、ありがとう

特別追悼号発行委員会



なお、父の代から暮らした七隈の末永の地は、福岡市に寄贈申し上げております。隣接する末永文化センターは、九州交響楽団の練習場となつておりますが、ミユゼ・オダ（美術館）を併設し、音楽藝術を愛する皆様に演奏会・演劇・芸術作品発表の場としてご利用いただいております。

今後、この地を散策されることがありましたら、ここに暮らし、親しく会話した老人が居たことを思い出してくだされば、どんなにか私は幸せなことでしょう。

これまでに皆様から賜りました、深い愛と光に厚く、御礼申し上げます。

ありがとうございました。

令和元年初夏

敬具

末永直行

## 末永直行氏年譜

- |                   |                                      |
|-------------------|--------------------------------------|
| 1923（大正12）年 3月30日 | ■福岡県福岡市に誕生                           |
| 1940（昭和15）年 3月    | ■福岡県中学修猷館（現・修猷館高等学校）卒業               |
| 1943（昭和18）年 3月    | ■福岡工商（現・福岡大学）卒業                      |
| 1952（昭和27）年 3月    | ■西南学院大学商学部卒業                         |
| 1952（昭和27）年 6月    | ■西日本音楽協会設立                           |
| 1954（昭和29）年       | ■福岡市音楽愛好会設立                          |
| 1959（昭和34）年       | ■福岡西ロータリークラブ入会                       |
| 1962（昭和37）年       | ■西日本文化賞 末永直行氏、末永博子氏各々で受賞             |
| 1965（昭和40）年       | ■学校法人福岡音楽学院設立 理事長・院長を歴任              |
| 1967（昭和42）年 8月    | ■博多鉄道構内営業（有）【屋号：寿軒】取締役社長（2010年閉店）    |
| 1970（昭和45）年 7月    | ■国際ロータリー第370（現・2700）地区ガバナー（1971年迄）   |
| 1971（昭和46）年10月    | ■社会福祉法人野の花学園理事長（2009年迄）              |
| 1978（昭和53）年 4月    | ■福岡日仏協会会长（2008年迄）を経て名誉会長             |
| 1979（昭和54）年 3月    | ■社団法人有信会（福岡大学同窓会）理事長（1995年迄）を経て名誉理事長 |
| 12月               | ■在福岡フランス共和国名誉領事（1993年迄）              |
| 1981（昭和56）年 9月    | ■財団法人福岡YMCA理事長（2007年迄）               |
| 1982（昭和57）年 7月    | ■国際ロータリー理事（1982-84年）                 |
| 12月               | ■フランス共和国国家功労勲章シュバリエ章受章               |
| 1984（昭和59）年 6月    | ■財団法人九州交響楽団常務理事                      |



一人にピアノ一台の幼少期



「僕はね、幼稚園に車で通ってたんだよ…。」という末永さんの言葉は、本当だつたことを証明した写真。この写真を見つけた時、これで幼稚園に通ったのですね…「そうだよ、南博幼稚園はね、この車のために駐車スペースを作ってくれたんだ。」どつちも、洒落とんしゃ～！

## 拝啓

神の恵みに感謝し、暖かなる光と深い愛を与えて  
くださった皆様に、心より感謝申し上げます。  
さて、この手紙が読まれる頃には、私は天に召さ  
れていることでしょう。末永直行は、この場をお借  
りして最期のお願いをさせていただきます。

亡き父・末永敏毅は、人生の最期をお知らせされ  
ば、皆様を患わし、ご迷惑をおかけすることになる。  
むしろお知らせする時期をでき得る限り延ばして、  
昔語りでもするような形でさりげなくお知らせする  
ように、そして葬儀無く、御弔辞一切のご配慮をご  
遠慮することが、希望でございました。

そして、今、私が天に召されるにあたり、父の行  
いに因じく、皆様のお心を患わすこと避け、皆様  
と語らい過ごした慶びの時を思い浮かべてくださる  
ことを、切に願うところです。

葬儀なく、ご弔辞、その他一切のご配慮をご辞退  
申し上げます。

人生の仕舞いにあたり、わがままをお聞き届けい  
ただきたくお願ひ申し上げます。



フランス共和国国家功労勲章・コマンドール章受章パーティ（於・フランス大使館）  
駐日仏大使モーリス・クルドー・モンターニュ閣下夫妻、  
家族と共に。左端は、盟友・青木秀氏（西日本新聞社長）

- 1985（昭和60）年10月 ■ ポルドーコマンドリー福岡会長（2016年迄）を経て名誉会長
- 1987（昭和62）年11月 ■ 福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）会長を経て名誉会長
- 1988（昭和63）年 3月 ■ 学校法人西南学院理事（2000年迄）
- 1989（平成元）年 4月 ■ フランス共和国レジオン・ドヌール勲章シュバリエ章受章
- 1992（平成 4）年 ■ 社団法人企業メセナ協議会第二回メセナ特別賞受賞
- 8月 ■ 財団法人ロータリー米山記念奨学会理事長を経て名誉理事長
- 1994（平成 6）年 ■ 第1回福岡市民文化活動功労賞受賞
- 1996（平成 8）年 5月 ■ スペシャルオリンピックス日本・福岡会長（2009年迄）
- 2000（平成12）年 9月 ■ 財団法人日本YMCA副理事長（2002年迄）
- 5月 ■ フランス共和国国家功労勲章コマンドール章受章
- 2002（平成14）年 ■ 文部科学大臣表彰全国社会教育功労者受賞
- 2003（平成15）年 ■ 第11回福岡県文化賞受賞
- 2003（平成15）年 7月 ■ 日本ロータリー財団顧問
- 2006（平成18）年 ■ 学校法人福岡大学理事長（2010年5月迄）
- 2007（平成19）年 4月 ■ フランス共和国レジオン・ドヌール勲章オフィシエ章受章
- 2014（平成26）年 ■ 福岡県地域文化功労者賞受賞
- 2015（平成27）年 ■ 文部科学大臣より地域文化の振興への尽力に対する表彰受賞
- 2019年5月14日 ■ 逝去 享年96歳

# My Deepest Condolences to an extremely good and trusted friend.

President,  
Rotary International 2002-2003

Bhichai Rattakul

Life is so unpredictable!

As I write this message I do so with a heavy heart and with great sadness for the word, especially his beloved city Fukuoka, and his country, Japan had lost a wonderful man, a great man, a man of his quality is hard to find anywhere in the present world.

This wonderful man is no other than Mr. Naoyuki Suenaga who passed away at the age of 96 on 14 May 2019

The loss of this great man doesn't mean the loss of just one man. It was a loss of a man who had his whole life spent in doing good for the betterment of humanity.

His love to his family. His love for his city, Fukuoka where he was raised and grown up to become an ideal man who had never thought of himself, but to his country and the world who did so much in the Affairs of those who need his help in making their lives a little bit better.

Suenaga san had no foes but only friends, not only in his country but throughout the world.

He was invited to join the Rotary Movement, the Rotary club of Fukuoka West in 1959 and served his club as its president. In 1970-71 he was elected as Rotary Governor and he reached his highest career in Rotary when he was elected a Director of the board of Rotary international in 1982 - 84.

He had donated a part of his property to build the Cultural Center at his own expense and this time donated all the rest to the city of Fukuoka to reform into a park with full of greenery.

I have known Suenaga san for many decades and we became very close and good friends. Whenever I am in

Fukuoka, he was always there to help and assist me in my Rotary work.

Suenaga san was two years my senior, he was therefore like my older brother.

I respect and love this gentleman. It is only natural that sooner or later I will follow him.

Serving as President of Rotary Yoneyama Memorial Foundation he took up the responsibility very seriously and he was very proud of the result of the assignment given to him. It is through this Foundation that he was able to promote significant progress towards achieving peace and international understanding among the youths of so many lands.

Suenaga san had now left us, leaving only his legacy for the future generations to follow the good work he had done... serving humanity.

Those of us who are alive will not be able to see him and hear him again, but we will always remember him. as an honorable man... a man with dignity... and a man with love... a man who deeds during his entire life are too difficult to describe by means of words.

That great man. That outstanding Rotarian...

NAOYUKI SUENAGA SAN



ミユゼ・オダ（末永文化センター）にて

# この上なき良き、そして信頼を寄せていた友へ 深い哀悼の意を表して

2002-2003国際ロータリー  
会長

ビチャイ ラタクル

人の命は本当に予測不能だ！

このメッセージを沈痛な気持ちで、言葉にするだけでもとても悲しく、認めております。

特に彼の愛した福岡市、彼の国日本は、素晴らしい人、偉大な人を喪くしました。彼のような品性を備えた人はこの世界どこを探して見当たりません。

この素晴らしい人とは齢96にして2019年5月14日にお亡くなりになった末永直行氏に他なりません。

この偉大な人が逝ったという事は、ただ単に一人の人が亡くなった、ということではありません。人類の向上のために全人生を費やした人を失ったのです。

彼の家族への愛。福岡への愛。彼はここで生まれ、長じては自己を顧みず国や世界を考え、彼の助けを必要としている人々の生活が少しでも楽になるようにと沢山のことをなし、人が望み考えうる最も高潔な人へと成長しました。

国内のみならず、世界中で末永さんを敵視する人はおらず、本当に友人ばかりでした。

ロータリー活動に加わるように誘われると、彼は1959年福岡西ロータリークラブに入り、クラブ会長を務めました。1970-71年とロータリーのガバナーに選ばれ、1982-84年には国際ロータリー理事に選ばれロータリーにおける最高のキャリアに到達しました。

彼は以前、自分で費用負担して文化センターを建てるようになると所有地の一部を福岡市に寄贈しました。そしてこのたび、残り全ての所有地を市民が憩える緑豊かな公園にす

るようになると、福岡市に寄贈しました。

私は何十年も末永さんを存じ上げています。私たちは親友、大の仲良しとなりました。私が福岡にいるときはいつもそこにいて私がロータリーの活動ができるように手助けをしてくれました。

末永さんは私より2歳年上でした。ですから私にとって兄のような人でした。

私はこの紳士を尊敬し愛しています。当たり前のことですが、遅かれ早かれ私も彼に続きます。

ロータリーの財団法人米山記念奨学会理事長職に就きましたが、この責務にとても真剣に取り組み、自分に課せられたこの任務の成果をとても誇りにしていました。この財団活動によってこそ 彼が非常に多くの国々の若者の中に平和と国際理解にむけて意義深い進歩を推し進めることができたのでした。

今、末永さんは私たちのもとを去りました。未来の世代の人々が彼のなした善き仕事、すなわち人類に奉仕する仕事、に続くようにとレガシーのみ残して。

今生きている私たちは再び彼に会い、彼の声を聞くことはできません。しかし私たちはずっと彼のことを覚えているでしょう。高潔な人、威厳がある人、愛の心のある人、言葉では到底表すことができない行いを生涯通じてした人として。

あの偉大な人。あの傑出したロータリアン…  
ナオユキ スエナガサン

# 末永直行君のご逝去にあたり

ロータリー日本財団理事長  
ロータリー財団元トラスティー R.I.元理事  
**千 玄室**（京都ロータリークラブ）

「歳々年々人不同」とあるように、年を取っていくのは人間にとって当然だが、又それとともに此の世からあの世へといふこともあります。儂い夢の中で生きている自分を思うとき、亡き人のことを痛烈に想い出すのです。高齢者になると次々と友人知人が逝かれ、悲しみとともに孤独感に襲われます。

親友というべきか同じ年に生まれ、国際ロータリーという一つの御縁で絆をもった末永直行君が五月にご逝去されました。そのお知らせを聞いた時、耳を疑ったほど驚きました。先に愛妻を亡くされた時に御慰めしたのに今度は御本人と、私は貴重な友を失ったことに心を打ち碎かれたのです。

福岡で実業家として活躍され、御夫人が有名な音楽家でもあられたので、音楽の好きな彼は音楽ホールを造られました。御夫妻で本格的に音楽を楽しみ、友人知己や一般の方々にも開放、披露されていたことは大変なことだったと思います。また、九州の交響楽団を永らく支援され、九州の音楽界を世界に紹介されていたのです。特に敬虔なクリスチヤンもありました。

私が初めて直行さんとお会いしたのは一九七八年ガバナー・ミニーのリーダー指導役に選ばれた時です。フロリダ・ボカラトンでリーダー研修が行われる前に、東京で顔合わせをしました。一目御会いした時からピッタリ気が合い、直ぐに友人になってしまったことを後に話題にすると、直行さん曰く「僕は千さんのことを前から存じていたのだが、茶道の大家で中々近寄れなかった、これで相性がピッタリだからよかったです。」と嬉しい言葉でした。ボカラトンでは毎日一緒に研修。新任のガバナー・ミニー各位にR I の規約や定められた議題を二人でこなしました。同行していた私の家内も音楽好きで直行夫人ととても気が合ったこ

とは申すまでもありません。

私が福岡を訪問すると自動車好きな直行さんはロールス・ロイスでお迎えにきて下さったものです。私には海軍時代の生き残りの仲間が福岡おりました。西鉄グランドホテルの社長を務めた竹田君、西日本新聞の社長など五～六人で集まる時に直行さんも一緒に加わり、楽しい一刻を過ごしました。飾り気のない男ぶりの良い彼は多くの人から愛されました。

私より一期上のガバナーを務めた直行さんは、国際性のある明朗快活な性格で国際ロータリーのメンバー達とも友人になり、委員会の委員も務めました。

私が一九八八年～九十年に理事になったときには「千さん、ロータリーもあんまり足を深く突っ込んだら仕事が大変だよ。まあほどほどにね」と肩を叩いて下さった。

音楽芸術を愛する皆さんに末永文化センターを開放し、九州交響楽団の練習だけでなく、作品発表会などに活かしているということを生前何時も伺い、私も訪れたことがあります。

御親族から「生前、天に召されたら自分の最期は知られるな」との御遺書とともに御便りを戴き、最期まで人さまの迷惑にならぬようにと思われていた直行さんの深い御志に、私はまたしても涙し合掌しております。

末永直行さん、安らかに御休み下さい。貴方との友情は私もあるの世に行けば再び結び合うことが出来ると、それのみ願い御冥福を祈っております。偉大なる友、貴方は私の心の中に今も生きておられることを申し上げます。



# 追悼の辞

公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会  
理事長

齋藤 直美

末永直行先生が本年5月にお亡くなりになりました。96才の御生涯でした。

先生を失ったことは、日本のロータリーの大きな損失であり、痛惜の極みであります。

私がロータリークラブに入会させていただきロータリーの西も東もわからない頃の1999年10月、2500地区の地区大会へ、先生は会長代理として釧路市へお出掛けになりました。同地区の時のガバナー田巻昭男氏のたっての要請でありましたので、決定通知がありました時には両手を叩いて喜ばれた、と田巻夫人よりお聞きしました。その大会での会長代理メッセージと講評の格調の高さは、今でもロータリーの地区大会のあり様のお手本とされていると伺っています。また、青少年育成、クラシック音楽の普及など幅広い文化活動を積極的にすすめられ、後輩の私達にロータリアンの理想的な生き様としてお示し下さいました。

先生は、1959年福岡西ロータリークラブにご入会後、多くの地区役員を歴任され、1982年～83年国際ロータリー理事をお務めになられ、以降国際ロータリーの各種委員として御活躍されました。



2000年1月 台北にて 李登輝総統と

1992年には公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会理事長にご就任され、2002年までその任務に御尽力下さいました。この11年間は決して平穏なものでなく、1991年のバブル崩壊、1995年の阪神淡路大震災などと当奨学会に大きな試練を及ぼしました。しかし、全国のロータリアンの支援の下に、その苦境を先生のご指導力のお蔭で乗りきることが出来ました。

この時代は学友会活動が活発になり、関東地域に7つの学友会が分離独立したのを手始めに、2019年8月現在、海外に9学友会、国内に34友会の設立をみるに至っております。また、1998年には米山奨学生の出身地をロータリークラブ所在国に関わらず全ての国・地域に拡大して、国際社会で活躍し国際親善と交流を深め世界平和の創造と維持に貢献する留学生を広く受け入れるという、米山奨学会の目的に沿った方針が順次具体化された年代でもありました。

これから当会は、日本のロータリアンの皆様の御協力の下、一致団結し、国際社会へはばたく多くの学友を育てる努力をしていく覚悟であります。

最後になりますが、先生の薰陶を受けた私達はその教えに従い、ロータリー米山記念奨学会を維持発展させるよう邁進することをお誓いし、ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



当時の第370（現・2700）地区各クラブの会長達からプレゼントされた腕時計



愛用の万年筆

# 末永さん追悼

国際ロータリー第2700地区 パストガバナー

大島 英二（鳥栖ロータリークラブ）

先日、特別追悼号発行委員会から故末永直行氏の追悼原稿依頼を受け賜り、お世話になった思い出を綴らせて頂きます。

末永氏のロータリー歴は55年で、人生の半分以上ロータリーと共に歩んで来られました。

末永氏とは鳥栖RC創立時又、同時にガバナーR I理事、米山の理事長等などでお近づきに恵まれました。

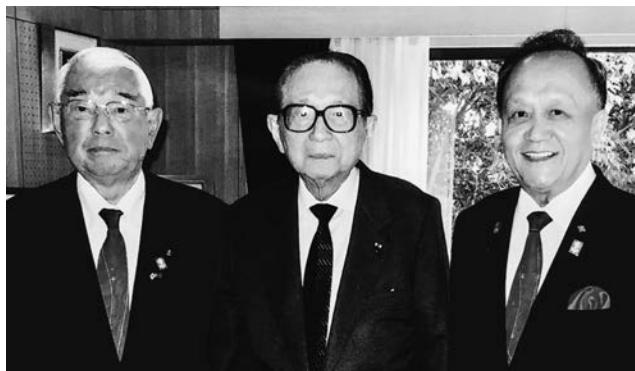
私が2700地区ガバナーノミニ、エレクト時代に末永氏の事務所によくお邪魔したものです。

米国、アナハイムでの国際協議会に出席に際し、ご挨拶に末永氏に伺いました際、「今度、台湾から初めてのR I理事に黄其光さん（ゲイリーC.K.ホアン）、ニックネームはゲイリーという素晴らしい方が就任されているので、是非会ってこられたら如何ですか？」と、話して下さいました。

ゲイリー氏との初めての出会いは、理事会の終了を待つて挨拶を交わしました。その時からのご縁がいまだに続いておりこのお話を無ければ今の様な関係は無かったと思います。

その後、ゲイリー氏がR I会長に決定され台湾で彼と食事の際に「そうだ、鳥栖RC40周年の記念式典に出席を」と依頼させて頂きました。とても無理な話だと思いましたところ、彼はちょっとと考えその場で快諾してくれました。

ゲイリー氏が来日した時に末永氏の自宅へ表敬訪問され、末永氏も久しぶりにゲイリー氏にお会いになり感動し喜んでおられる様子で、その時の様子を思い胸が熱くなります。



2015年2月25日 撮影

末永氏のクラブの記念式典と祝賀会が開催され、その時もゲイリー氏の話を楽しそうにしておられました。

その際に記念誌を頂き、末永氏の祝辞の中に「先輩諸氏から学んだ事」は、「一番先になる者は、すべての人の後ろになり全ての人に仕える人になりなさい。」（マルコによる福音書・9章35節）という聖書の言葉に通じるものがあり、これは私の人生の教訓ともなりました。

その上、末永氏は音楽にも造詣が深く九州交響楽団の地方オケでは初の専用練習場「末永文化センター（福岡市城南区）」を作られました。文化センターには音楽練習場の他、福岡日仏協会の事務局、ギャラリーなども併設し、音楽、国際交流の場にもなっています。

芸術文化振興に貢献した企業・団体を顕彰する「メセナアワード」特別賞を92年に末永文化振興財団が受賞。ピアニストで奥様の博子さん（故人）もたいへん素晴らしい方で福岡音楽学校（現・福岡音楽学院）を設立されました。

末永ご夫妻は、国内外の音楽家や芸術家と交流があり、自宅によく招いておられ、末永氏の人柄が、世界の文化人を引き寄せたのだろう、と囁かれ、私も本当にそう思い感じました。

末永氏には、会うごとに人柄の素晴らしい方に触れ感動し勉強をさせて頂きました。

あのピアノの部屋で時間が経つのも忘れ学ばせていただいたロータリアンとしての資質、人間としての生き方全て親身になって人間として大きな財産になる貴重な話をいつも聞かせてくださいました。

ロータリーで台湾と素晴らしい縁を作ってくださった末永さん。数年前3480地区から2700地区と友好を、とお話し頂きましたが叶えられず申し訳ありません。

2020年3月6日に第7回日台ロータリー親善会議が福岡で開催される件では何度も何度も話を聞いて頂きました。

それもいよいよ後10ヶ月と迫った頃に、何とも言えない笑顔で「そうですか、進んでいますか。」と頷かれ、「ゲイリーさんとも会えますよ」「是非再会を、ゲイリーさんも楽しみでしょう」と、お話をしましたね。

思い出しても胸が熱くなりますがロータリーに入会させて頂いたお陰で、末永氏に出来話を聞く事が出来、私の人生に於いてとても素晴らしい事でした。

5月15日、末永氏がピアノの前で休んでおられ、この時に末永氏の額や髪に触れ「会いたい」と言って頂いた日が別れの日になり、貴方の温もりが今も残って忘れる事が出来ません。

素晴らしい出会いを作ってくれたロータリーに感謝いたします。

末永さん長い間ご教授いただき本当に有難うございました。

# 末永直行さんを偲んで

国際ロータリー第2700地区 パストガバナー

廣畠 富雄（福岡西ロータリークラブ）

当RI2700地区にとり、かけがえのない末永さんを失い、痛恨の念に堪えません。末永さんと私は、同じクラブの所属で親しくして頂き、それだけに誠に残念に思います。思い返せば、2019年5月12日（日曜）に、末永さんから電話がありました。受話器を置いたとき「もしやお別れの挨拶の電話では」と思い、すぐ病院にお見舞いに行きました。随分やつれておられました。しかし大変喜ばれ、その嬉しそうな笑顔は、一生忘れないことでしょう。亡くなられたのは、その2日後の事です。

2020年に、日本のロータリーが創立100周年を迎える、100年間の「100人のロータリアン」を選び、一冊の本になります。末永さんも選ばれたお一人で、その紹介文を私が書きました。それと若干重なる形で、在りし日の、末永さんを偲びたいと思います。

末永さんは福岡西ロータリークラブに、30代の若さで入会し、会員歴は50年を超えるました。1970年に47歳の若さでガバナーを務め、1982年には59歳で、RI理事になられました。同じ年に、以前から親しかった向笠廣次さんが、RI会長になられ、末永さんは向笠会長を助け、力を合わせてロータリー活動をされました。向笠さんは九大卒の精神科医で、会長モットーは、「人類は一つ、世界中に友情の橋をかけよう」でした。またその後も、RI会長の指名委員をつとめるなど、ロータリーへの貢献は大きく、当地区を代表する、或は日本を代表するロータリアンでした。

1992年には、ロータリー米山記念奨学会理事長に就任。この奨学会は、1994年には寄付額が年に20億円を超え、また年間奨学生は1,100人を超え、日本で最大の民間奨学事業を行う財團となりました。末永さんは奨学生のフォロー

アップを重視し、韓国や台湾に帰国して活躍する元奨学生（学友）を訪ね、海外での「米山学友会」設立に力を入れました。「ロータリアンが米山奨学事業という畑に種を撒き、今は花が咲き誇っているね」と末永さんは語り、また末永さんを訪ねる海外からの学友が、後を絶たなかったと聞いています。

末永さんは温厚な人柄で、眞の紳士でした。自身確固とした信念をお持ちだが、外に出すのは控えめだったと思います。ある年次大会の時、お宅が火災との連絡があったが（但し住んでいない方の居宅）、最後まで大会会場に残られた思い出があります。まことに思慮深い方だし、紳士のロータリアンでした。

末永さんの祖父の寿氏は、運送業で財を成し、お父さんの敏毅さんは、医業に従事し、直行さんは寿軒（博多駅弁当業）を経営しました。末永家は邸内に教会を建て宣教師を招き、ピアノを囲んで讃美歌を歌うご家庭でした。祖父の寿氏からは「財を増やそうと思うな、世のために使え」と教えられたそうで、所有の七隈の7千坪の敷地には「末永文化センター（音楽ホールなど）」「福岡YMCA」「ミュゼオダ（美術館）」が建ち、緑に囲まれた福岡の文化の発信地の一つになっています。なお敷地の大部分は、福岡市

に遺贈され、公園にする予定と聞いています。前述の音楽ホールは、私財を投じて建設されたのですが、九州交響楽団の得難い練習場となり、同楽団の素晴らしい発展につながりました。

末永さんは、著名なピアニストである博子夫人と共に、福岡音楽院の設立など、音楽文化向上への貢献が大きく、1962年に「西日本文化賞」を、ご夫妻が各々単独で受賞しておられます。国際交流への貢献も大きく、福岡日仏協会の会長、また福岡フランス共和国名誉領事を永年務め、毎年主催される「福岡パリ祭」は有名でした。これら永年の功績に対し、フランス共和国から、レジオンドヌール等4つの勲章が授与されています。

素晴らしい、眞のロータリアンであった末永さん、素晴らしい福岡市民であった末永さん、私は共に過ごした貴重な年月を振り返り、哀悼の心が一層強まり、深い追憶にふける次第です。末永さん、有難う、そしてもし可能なら、天国での再び会う日を願いつつ、さようなら。



ビチャイ・ラタクル元RI会長を福岡市にお迎えして  
(2006年3月30日)

## 真のロータリアン

波多野 聖雄  
福岡イブニングロータリークラブ

当地区のパストガバナー（一九七〇—七一年度）で、かつて元国際ロータリー理事（八二—八四年度）の末永直行氏は、ロータリーに関して、何事もご相談できる大御所的な存在ですが、実に穏やかな紳士の典型といえる方です。

今年四月一七～一八日の二日間、当地区の地区大会が挙行されました。二日目の午後一一時過ぎ、松平定知氏による「戦国武将に見る生き方のヒント」と題する特別講演の最中のことでした。一片の紙切れが末永氏に手渡されるのを隣席にいました私の家内が見ておりました。

氏は平然として、熱心に松平氏の講演を聴いておられ、昼食後の最前列の席で地区大会の推移を見守っていました。五〇年皆出席の表彰も、淡々とお受けになつていらつしやいました。そして一七時三〇分の閉会宣言の点鐘を聴いて、地区大会を退席されたのです。

実はそのころ、広大な邸宅の一部ではあります、旧館（昭和初期の素晴らしい木造建築）がほぼ全焼していたのです。その中には古文書など、非常に重要な品物もあつたと聞いております。

私は大会が終了し、後片付けを見届けて帰宅しました。テレビのニュースで、末永邸の旧館の全焼を知った次第です。

私は今でも、あのとき会場での泰然とした氏の姿が見に焼きついています。なんとすばらしいロータリアンではないでしょうか。

翌朝、火災お見舞いに伺つた際も正装され、玄関で見舞客ににこやかに挨拶されておられました。まさにロータリアンの典型、ここにあります。



1970～1971年度 RI会長 ウィリアム E. オーク, Jr.とともに



卓話、講演の原稿はすべてロータリー手帳に



第370地区（現2700地区）ガバナーとして公式訪問



# 大先輩、末永直行様を追悼して

福岡西ロータリークラブ

会長

忍田 勉

福岡西ロータリークラブの至宝とも言うべき末永直行様が、本年5月、ご逝去になりました。今回、灘谷ガバナーのお骨折りにより、末永様を偲ぶガバナー月信特集号が発行の運びになり、誠に有難く思っております。ここに福岡西クラブを代表し、謹んで追悼の辞を述べさせて頂きます。

末永様は1923年生まれで、当福岡西クラブに入会されたのは、1959年で、まだ30代の若さでした。当クラブ出身の、二人目のガバナーをつとめられ、さらにR I理事に就任されました。当時の理事は、日本から一人のみで、まさに日本のロータリーを代表する方でした。さらにロータリー米山記念奨学会の理事長をされました。現在、福岡西RCが、台北東海RCと友好クラブになっていますが、これは台北東海RCには、米山の学友が多く、末永様を通じたご縁によるものです。

私が福岡西RCに入会したのは、2001年です。当時末永様は、すでに70歳台の後半で、会員歴は40年を超えておられました。例会場の末永様は、温顔で、いつも微笑を浮かべ、正に紳士の方でした。例会場には、立派なロールス・ロイスでお見えになりました。末永様ご自身ではありませんが、末永ガバナーのとき、地区幹事をつとめた梶原さんが、長年ガバナー事務所の事務局長をされ、ロータリー博士で、ロータリーを語り、会員の指導をされた記憶があります。当地区の千種会（ロータリーの勉強会）のお世話をされていました。

末永様の令夫人、博子様は、高名なピアニストでした。お二人で、福岡音楽院を創立するなど、福岡の音楽文化の向上に努力され、お二人で、西日本文化賞を受賞されました。しかし博子様は、晩年には体調を崩され、またお嬢さんの茉莉子さんが、遠隔の地に居られ、末永様は家庭的には、苦労されたかも知れません。そういうえば、茉莉子さんは私と高校の同窓生であった事を思い出します（先方は私のことはご存知ないと思いますが）。

末永様が、九州交響楽団の要望を受け、立派な音楽ホールを私費で邸内に建てて練習場に提供し、これが九響のレベルアップに大きく貢献したと聞いています。またフランスの福岡の名誉領事を長くおやりになり、7月初めのパリ祭は、福岡の名物になっていました。

末永様が在籍し、愛し育てて下さった福岡西RCです。大先輩の名を汚さないためにも、微力ではありますが、今後とも努力してまいる所存です。会員数は一応140名を超える、大きなクラブになりました。私どもは大先輩の末永様の後を追い、立派なクラブ、立派なロータリー会員、そして立派なロータリー活動を目指して行くつもりです。どうか天国から見守って下さい。

素晴らしいロータリアンであった末永様を偲び、心からなる哀悼の意を捧げます。



ロータリー米山記念奨学会理事長時代。台湾の米山学友と共に

# 追悼 — 末永直行 —

九州交響楽団音楽監督  
小泉 和裕

飛騨古川で休暇を過ごしていたある日、一通のメールが届いて、末永さんが亡くなられた・・・との突然の訃報だった。

いつかは来る日とはいえ、まだまだお元気で、又、伺います、とお電話でお話しして、機会を探していた時期でした。

ショックの中に、「末永さんの追悼コンサート」を、という思いが一番に浮かびました。

一方、末永さんも、生前、「(そんな時は) 小泉君に振ってもらいたいなあ・・・」と、呟かれていたことをお聞きして、心が同じであることで腑に落ちました。その後、オーケストラや私自身のスケジュール調整に時間がかかったのですが、11月に決定することができて、想いが通じました。

九響（九州交響楽団）として、音楽監督として、音楽家として、末永さんに心からの感謝と、敬愛の気持ちを込めて演奏したいと思います。

末永さんは、九響の首席指揮者だった35年前にお会いして以来お世話になっており、1987年には、九響が何よりも必要としていた練習場として、末永文化センター（音楽ホール）を建設していただきました。以来、末永文化センターが、九響のホームグラウンドとなっています。嘗て、練習場を持てず、学校や放送局を転々としていたことを思うと、夢のような環境を末永さんは九響に与えてくれたの

です。当時、このことは、音楽界に大きな影響を与え、各地の楽団が専用の練習場を持つ呼び水ともなりました。

また、企業の文化事業に対する純粋な貢献活動においても先駆けとなり、ホールを運営する末永文化振興財団は、1992年に「メセナ賞」に輝きました。練習・創作活動の場として作られたことが高く評価されたのです。

また、本当の意味で、芸術文化—音楽と美術を愛された方で、心から楽しまれ、又、真剣にバックアップしていただきました。海外の著名な芸術家とも個人的な交流を持たれていて、数々のエピソードを驚きと共にうかがいました。

1958年に、末永さんが米国国務省招聘にて渡米した折に指揮者トスカニーニやピアニストのゼルキン、そして建築家ライト等と面談され、米国各地の音楽施設や関係者との交流を持ち、その時に音楽を支える日米文化・土壤の違いに驚いたというお話もありました。オーケストラを育てるのは地域であり、聴衆であり、練習場であるということを肌で感じたとも語っておられましたが、当時、私が、覚悟を決めて、九響のための練習場建設をお願いにあがつた折りの、末永さんの建設に向ける熱意とあの勢いは、こうした経験が深く影響していたのだろう・・・と、今さらながら思うのです。

特に、メニューインが九響の練習ホールを使って感激してくれたお話や、イタリアの合奏団「NADA」が演奏会を開催し、あまりの音響の良さにブームスの「ピアノ五重奏曲」のCDをこのホールで録音したこと等は、本当に嬉しいことでした。

歴史的な画家や声楽家の話からは、芸術家達がいかに末永さんを敬愛していたかが、よくわかり、日本にもこんな方がと！・・・。

日本人本来の芸術文化を最も大切にしてきた伝統と歴史を体現されていた方でした。

どうぞ、安らかにおやすみ下さい。そして、追悼コンサートでは、成長した九響の演奏を聴いて頂きたいと思います。



2015年3月 小泉和裕・雅美御夫妻と末永氏



1960年 若き日の末永氏とピアニスト、ゼルキン氏  
末永氏のプロデュースにより初来日演奏会

# 「海の家」と「お山の家」

公益財団法人末永文化振興財団理事  
博多港ふ頭株式会社代表取締役社長  
前福岡市副市長

中園 政直

末永直行さんがご活躍の頃、私は福岡市の職員であった。様々な場所でお顔を拝見したものの、遠くからただあこがれるばかりの方であった。後に、福岡大学の同窓として声を掛けていただき、七隈のご自宅で、想像もつかない経験と見識あふれるお話を、何度も聞く機会をうけさせていただいたことを懐かしく思う。

末永さんは、戦後福岡の音楽・芸術・文化を牽引され、築かれた数々の功績については多くの方の知るところであるが、私は、160万人に達しようとする福岡市民の生活に、潤いと安らぎをもたらす公園、緑地への深い思いと貢献について書いてみたい。

かつて末永家には「海の家」と「お山の家」があったと聞く。

「海の家」は、戦前に富裕税の物納として手放され、後に「浜の町公園」(中央区)として整備されている。浜の町公園は、都心部の貴重な憩いの空間として、そして災害時の避難場所として、市民の貴重な財産となっていることは言うまでもない。末永さんは、敷石や樹木に思い出が重なると語っておられた。

一方、「お山の家」は、城南区七隈にある自宅を含む緑豊かな敷地約1.6haを指す。父・敏毅さんが土地を入手し、モダンな8棟の家を建てていた。それらは戦後、進駐軍に接収されたが、異例の措置が取られ、複数の将校とともに末永家も敷地内に暮らしていたらしい。その後、九州交響楽団の常任指揮者として活躍した、フォルカー・レニッケさんにその1棟を貸すこととなり、これが末永さんと九州交響楽団との深い関係となる端緒となったそうだ。

末永さん父子は、この小鳥さえずる都心の小さな森を、開発から守り、長く社会に役立てたいと考え、当時、緑と人間味豊かな都市づくりを進めていた進藤一馬市長に自ら申し出、1985(昭60)年、敷地全体を対象に、開発行為が大幅に制限される、特別緑地保全地区の指定を受けた。福岡市は、「区内で初・所有者の好意で緑のこす」と市政によりで大きく報じている。

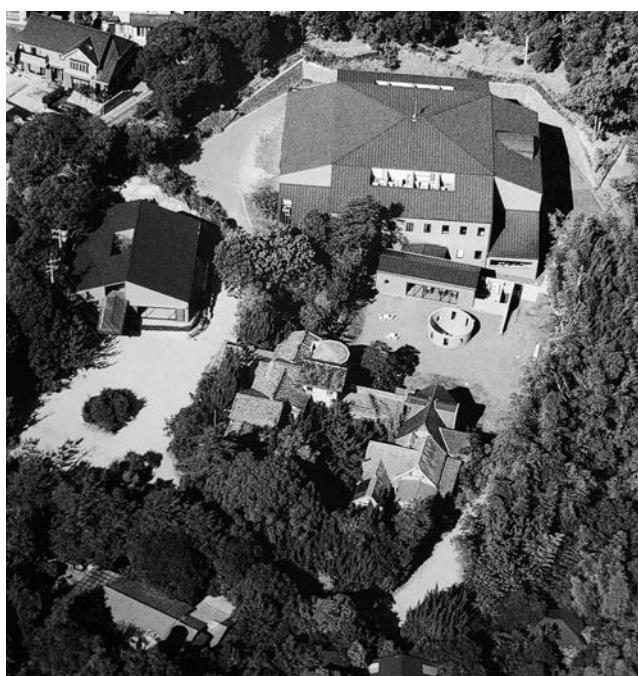
ところで、当時の九州交響楽団は練習場を持っておらず、

学校や放送局を転々としていた。この問題が報道でも大きく取り上げられ、練習場の確保が行政課題ともなっていた。福岡サンパレスの担当職員であった私は、地下にある練習場を専用ではないが、定まった練習場として九州交響楽団に提供することを上司に進言し、他に具体的な解決策もなかったことから、1981(昭56)年、一旦ここが九州交響楽団の練習場と定めた。しかし、主席指揮者小泉和裕さんは、「専用練習場が無ければ一流のオーケストラは生まれない。」との強い信念のもと、末永さんと何度も検討を重ねた結果、土地は「お山の家」の一角を末永さんが提供。建設費は高額のためかなり難航したが、福岡市へ「お山の家」の一部を売却することで捻出。専用練習場建設の運びとなった。1985(昭60)年、運営する末永文化振興財団が立ちあげられ、2年後の1987(昭和62)年に、NHK交響楽団の練習場をはじめとも言われた音楽ホールや、ギャラリーを備えた末永文化センターが誕生した。

「お山の家」には現在、末永文化センターとともに末永さんの自宅、ミュゼ・オダ(美術館)、そして福岡YMC Aが立ち並び、文化センターが九州交響楽団の専用練習場と事務局として活用される等、文化の創造と国際交流の場となっている。

そして晩年、末永さんは自宅を含む所有地の全てを福岡市に寄贈することを決意し、福岡市と死因贈与契約を結んだ。

末永家の「海の家」と「お山の家」は、全て公のものとなった。私たちはその経緯をしっかりと抱き、福岡市が緑豊かで文化が生み出される、国際都市として発展し続けることを誓いたい。



お山の家

# 感謝の気持ちを込めて

国際ロータリー第2700地区

2019-2020年度 ガバナー

灘谷 和徳

私が末永直行様の訃報を知ったのは、お亡くなりになつて1週間が経った5月22日の地元紙朝刊の記事を目にしたときでした。日本のロータリー活動に、そして何よりも当第2700地区の発展に多大なる功績を残された方なのにこういう形で知ることになった、このことに私自身驚くばかりでした。

しかしながら、末永様のこれまでの生き様や、末永様をよく理解された周囲の方々のお心遣いを知るに及び、静かにこの世を去られることを望まれたご遺志を理解することができました。今は只々感謝申し上げご冥福をお祈りするばかりです。

日本でロータリークラブが誕生して来年で100周年。この100年間でご功績があった100人のロータリアンを選んで『日本ロータリー100年史』の別冊として『100人のロータリアン』が来年刊行されます。勿論末永様もその中の一人として取り上げられることになっています。しかしながらその刊行を待つことなく他界されたことは残念の極みと言うほかありません。

私がガバナーとして活動するにあたり、メッセージとして「不易流行～永続と変革～」を掲げさせて頂きました。その実践の一つとして『ガバナー月信』の表紙にロータリーの功労者を取り上げさせて頂き、その方々からロータリーの原点、理念（心）を学ばせて頂くという企画を立てました。そのお一人として末永様がおられたわけですが、残念なことに掲載を目前に他界されました。

『ガバナー月信』の例月号で訃報を掲載するだけでは申し訳ない、表紙に掲載するにも文字数に限りがあるって意を尽くせないと想いで、このような『追悼号』を発行させて頂くことに致しました。幸い、末永様の周りにはご縁が深かった方々、いろいろな分野で熱い思いを語り合われた方々などが多くおられ、その方にご寄稿をお願いしたところ二つ返事でご承諾を得ることができました。この場をお借りしてご協力頂いた皆様方に厚く御礼申し上げます。

第2700地区のロータリアンの皆様や末永様とご縁がありになった皆様方にこの追悼号を通して末永様を偲んで頂ければ幸いに存じます。



# 末永直行さん死去

九響支援、音楽振興に尽力

96歳



九州交響楽団への支援や駅弁会社経営など福岡の文化・教育・経済各界で幅広く活動した末永直行(すえなが・なおゆき)さんが14日午前1時57分、肺炎のため福岡市の病院で死去した。福岡市出身、96歳。葬儀・告別式は近親者で行った。後日、お別れの会を開く予定。

西日本学院大在学中の1950年、フランスのピアニストの福岡公演に協力したこと为契机に、福岡日仏協



福岡音楽学校(後の福岡音楽学院)の運営に携わった末永直行氏と博子さん(中央)  
=1962年、福岡市

## 評伝

九州交響楽団の初期から関わり、永く役員として支え続けた末永直行さんは、まさに九響の「育ての親」の一人。音楽を、九響を心から愛し、そのままさしはわが子を見守るようだった。

初めて会ったのは1970年代半ば。末永さんは既に家業の駅弁会社社長で、いつも笑顔を絶やさず余裕を感じさせた。土地持ちの資産家という金錢的ゆど

## 九響愛した「育ての親」

会の設立に携わり、78年に同協会の会長になった。52年に西日本音楽協会を設立し、新人音楽家の发掘を目指すコンクール(現・西日本国際音楽コンクール)を目指すコンクール(現・西日本国際音楽コンクール)。

博多の老舗駅弁会社社長を務める傍ら、末永文化振興財団を設立し、私財を投じて、九響の専用練習場でもある「末永文化センター」(福岡市)を87年に建設した。2006年から10年まで福岡大学理事長を務めた。

14日に死去した末永直行さんは、クラシック音楽家の育成など、地域文化や教育の支援に生涯尽力した。ゆかりの人々からは、「オケ専用の練習場を持つてほしい」と依頼。末永さんは穏やかな表情でした。ゆかりの人々からは、「オケ専用の練習場を持つてほしい」と依頼。末永さんは穏やかな表情でした。

福岡交響楽団音楽監督の小泉和裕さん(69)は、約30年前に末永さんの自宅を訪ね、「オケ専用の練習場を持つてほしい」と依頼。末永さんは穏やかな表情でした。ゆかりの人々からは、「オケ専用の練習場を持つてほしい」と依頼。末永さんは穏やかな表情でした。

専用練習場を建設  
樂團監督「大恩人」  
「格段にレベル向上」

情熱に感謝する声が聞かれた。  
九州交響楽団音楽監督の小泉和裕さん(69)は、約30年前に末永さんの自宅を訪ね、「オケ専用の練習場を持つてほしい」と依頼。末永さんは穏やかな表情でした。

ラはNHK交響楽団と読売日本交響楽団くらいで、九響に触発された全国のオケが練習場を設置するようになり、九響はもちろん日本中のオケの質がぐんと向上した。文化を市民に広げようと九響の専用練習場「末永文化センター」の建築だろう。九響のために、土地を提供し莫大(ばくだい)な私財を投じたのだ。当時、練習場を持っていたオーケストラ部長

が温厚な人柄を育んだのがかもしれない。おしどり夫婦だったピアニストの博子さんが2014年に亡くなつた際のしのぶ会でも、にこやかな表情を見せていたのが忘れられない。末永さんの最大の功績は、九響のため、土地を提供して開かれるコンサートを楽しんでいた。そうに聴いてくださつて、信じられない」と驚いた。信じられない」と驚いた。信じられない」と驚いた。

(藤田沙智)

# Memorial Album



末永邸を訪問されたRI会長 グレン W.キンロス氏 (1997~1998年度)



フランス共和国より受章した勲章



松平一郎氏からバトンタッチされ、RI理事に就任  
(1982年 フロリダ、ボカラトンにて)



福岡空港到着の際は、シラク大統領のご希望で末永氏がお出迎え  
(1996年11月来福)



2000年5月 フランス共和国より  
コマンドール章を受章